

おわりに

優良な農地の造成と防災機能の強化を目的とした諫早湾干拓事業が完成し、平成 20 年 4 月より本格的な営農が開始される。

本事業は農林水産省の委託を受けて、諫早湾干拓地をはじめ多くの地域資源を活かしながら次世代の農業、環境、観光の融合した新事業創出の可能性など地域活性化モデルの構築について調査・研究を実施し、以下のような方向性が明らかになった。

(1) 太陽電池と風車の設置

日射量と風速の実測とそれに基づく発電量シミュレーションを行った結果、諫早湾干拓地の日射量は日本トップクラスであり、同規模の風車と比較して太陽電池は約 2 倍の発電量が期待でき、太陽電池設置に適した場所である。

(2) 電動農耕機等の開発

草刈機を対象に、既存の鉛蓄電池を使った電動化シミュレーション実験を行った結果、走行性と草刈機能は共に電動化については問題ないことが確認された。

今後、軽量化・コンパクト化が可能な最新型リチウム電池を搭載することで実用化が可能であると判断された。

また、この電動化技術については野菜の運搬車や収穫車にも応用可能であり、農業従事者の軽労化、省力化にも大きく貢献できると思われる。

(3) バイオマス燃料の利活用

諫早湾干拓地内の植物系バイオマス賦存量は年間約 9,600 トン、うち利用可能量は約 3,000 トンであり、隣接する島原半島地区の畜産系バイオマスは年間約 700,000 トンと豊富である。

植物系バイオマスは嵩張ることから、減容化とペレット化及び低コストボイラの開発が必要であり、実用化に向けての課題は多い。

一方、今回の調査結果から実用化の可能性が高い畜産系バイオマスは、メタン発酵・精製技術適用によるハウス暖房用燃料への利用形態が有望と判断される。

(4) 観光・地域振興

諫早湾干拓事業によって新たに創出された地域資源（ハード・ソフト）や干拓地周辺の歴史・文化など、干拓地及び周辺地域の観光振興、地域振興のポテンシャルは十分に備えていると思われる。このことは、モニタリングツアーやアンケートによる市場調査からも明らかになっており、これからの取り組みの方向性を示すものである。

今後は、環境保全型農業、エコ野菜といった「農業」、循環型次世代農業の研究などの「環境」を「観光」という視点から効果的・効率的に結びつけ、交流人口の拡大、地域産業の振興などにより地域の活性化を推進していく必要がある、実現可能であると思われる。

以上のとおり、諫早湾干拓地の特徴を活かした農業、環境及び観光の融合による地域の活性化については、地域における非常に重要な課題であり、その実現可能性は高いものと思われる。

しかしながら、それぞれの実現に向けた取り組みにおいて解決すべき課題や問題点も多い。それらを克服し地域に元気を取り戻すためには、明確な目標（ビジョン）の明示化と目標実現に向けた地域住民、企業、行政の一体的な取り組み体制の構築、モチベーションの継続が必要不可欠であると考える。

その取り組みの契機として、本調査業務及び調査結果を活用頂き、諫早湾干拓地を中心とした地域や長崎県全域の活性化促進、さらには当該取り組みをモデルとして全国各地において干拓地等を活用した地域活性化への取り組みへ推進・展開されることを期待するものである。